



2010年に向けた事業ビジョンを実現させるためには 組織全体のスキルの底上げが不可欠 その原動力として、CISSPを大いに役立てています

NTTコミュニケーションズ株式会社

資格取得推進のポイント

● 経営課題・ビジネス背景

2010年に向けた事業ビジョンが策定され、その中でセキュリティ分野のエキスパートの育成が急務となった。

● 導入目的

より付加価値の高いセキュリティ・サービスの開発や個々のサービスの品質向上を図る。

● 導入プロセス

当初のピンポイント指名から幅広い社員への取得奨励に移行。会社負担でセミナー参加など数々の支援体制を整備している。

● 取得効果

- ・技術や専門性の高さが客観的に証明され受注確度を高める。
- ・お客様がベンダーの能力や経験を判断するときのハードルを低くする。

インターネット、モバイル、ブロードバンドが普及して、多様な形態のコミュニケーションが可能になっています。NTTコミュニケーションズ様は、こうした時代背景を読み解き、従来からの「IT」と「C (Communication)」を一体化させた「ICT」をキーワードに、2010年に向けた事業ビジョンを策定。そこで今回は、新たな成長領域のひとつであるセキュリティ分野において求められる高度な専門性や判断力を持ったプロフェッショナル人材の育成について、広報室長 佐野みゆき氏に語っていただきました。

日本企業ではCISSP取得者数No.1

セキュリティ・プロフェッショナルの育成がビジネスに新たな価値を創造します

私たちNTTコミュニケーションズは、「ソリューション」「ユビキタス」「グローバル」「セキュリティ」「ネットワークマネージメント」「ポータル/エンジン」の6つのコアバリューを「成長のエンジン」として捉え、事業強化に取り組んでいます。その一環として組織全体のスキルの底上げを図るため、社員に各種資格の取得や研修・セミナーへの参加を推進しています。特に、最近では内部統制を含む企業のコンプライアンス活動とリスク管理など、セキュリティに対す

るニーズが急速に高まっていることもあり、情報セキュリティ・プロフェッショナルの認定資格CISSPを取得する社員が増えています。現在ではCISSPの取得者はおよそ260名を数え、国内の企業では弊社がNo.1となっています。このような社員一人ひとりの絶え間ない自己革新が、より付加価値の高いセキュリティ・サービスの開発や個々のサービスの品質向上につながることを期待しています。

海外でも通用する資格であることそれがCISSPを選択したいちばんの理由

弊社が人材育成に本格的に取り組みだしたのは2000年からです。当初は情報セキュリティに特化せず、広い分野におけるIT人材育成という意味合いで、IPネットワーク関連の資格試験や研修に社員を参加させていました。次にプロジェクト

マネージャーや保守系のマネージャーを重点的に育成するために、PMPやITIL資格の取得を推進。そして2004年に4つのコアバリュー「ソリューション」「グローバル」「セキュリティ」「ネットワークマネージメント」(ユビキタス、ポータル/エン

テクニカルスキルだけでなく
マネージメント力、現場力、人間力を
強化し、セキュリティ事業分野の
リーダーになれる
人材育成を目指しています



NTTコミュニケーションズ株式会社
広報室長, CISSP

佐野 みゆき 氏

ジンは後から追加)が策定され、情報セキュリティ分野における人材育成が本格的にスタートしました。CISSPを重点資格として選択したのは、「グローバル」がコアバリューとして明示されているように、当社はグローバルにビジネス展開している企業であり、情報セキュリティのプロフェッショナル資格として国際的にも広く認められているCISSPは欠かせない資格であると考えたからです。当初は外資系企業を担当する営

業や高い専門性が求められる情報セキュリティコンサルタント、大口顧客向けセキュリティ・サービスの開発、設計・構築、保守に携わる社員を中心にピンポイントで指名し受験させていましたが、現在は情報セキュリティの社会的ニーズの高まりもあって、事業のあらゆる領域において情報セキュリティの知識・スキルが求められることから、幅広い社員にCISSPの取得を奨励しています。

受験者へのサポートとして(ISC)²公式セミナーへの参加を推進

CISSP取得のためのサポートとして、弊社では (ISC)²が主催する5日間のセミナー会社の費用負担でを受けさせています。私も参加したのですが、講師は全員が情報セキュリティの現場で活躍するCISSP認定保持者で、日本の実例を交えた質の高い講義に加え、広い出題範囲の中からポイントを絞って重点的に講義が行われるので、受験者には非常に役に立つのではないかと思います。また、CISSPは取得後も資格継続のために情報セキュリティ関連のトレーニングに参加するなど、継続教育ポイントを取得しなければなりません。弊社では、ポイント対象となる社外研修・セミナー

を社員向け研修プログラムのメニューに組み込んでおり、社員は通常の自己啓発の一環として、それらのトレーニングの中から必要なものを選択、受講することができます。これらの受講費用も一定の範囲内で会社が負担します。このような支援制度により、資格取得者は常に新しい知識やスキルを身に付けることができることを、プラス思考で捉えています。また、CISSP認定資格を受験する人や取得者同士の交流の場である「CISSPコミュニティ」を利用して情報を交換したり、スキルアップを図る社員もいるようです。

セキュリティに特化したサービスや商品が増え、ますます重要度が高まるCISSP

CISSPの取得を推進したことで、外からの評価が高くなりました。IT雑誌で行われるサービスプロバイダやキャリアに対する満足度調査で、弊社のネットワークやシステム運用サービスにおけるセキュリティレベルは、他社に比べて高い評価を得ています。これは社員がCISSPを取得、維持するために身に付けた高い専門性とスキルが生み出す付加価値の高いサービスが、お客様に認められた結果ではないでしょうか。また、直接的なメリットでは、お客様と商談する際、CISSPを持っていることで、経験の豊富さ、技術や専門性

の高さが客観的に証明され、受注確度を高める効果が期待できます。つまり、お客様がベンダーの能力や経験を判断、選別するときのハードルを低くすることができるというわけです。今後、J-SOX法（金融商品取引法）の施行等に伴って、ネットワークやシステムのセキュリティ強化に対するニーズがますます高まると考えられ、それに伴い弊社としてもセキュリティに特化した人材を増強する必要があり、CISSPを今まで以上に活用していこうと考えています。

